

美容室の眞の繁栄をお手伝いする'14

たにぐちだより 2月

谷口美容

検索

Free0120-417-011

Tel082-238-2221

Fax082-238-2227

<http://www.taniguchi-b.com>

e-mail:info@taniguchi-b.com

サロンでの氣づき

サロンを訪問させて頂きました。お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

新年明けましておめでとうございます。

2014年もスタートしました。

情けないことに年明け早々風邪をひいてしまいました。休み明けから厳しい寒さに見まわれていますが、皆さん体調管理には気をつけて今年も頑張って行きましょう。さて、私の正月休みは、紅白が終わって近くの神社に初詣に行き、元旦は、大久野島へ行き、うさぎたちとふれあってきました。

二日は宮島の厳島神社に行きましたが、大気が穏やかで潮も引いていたので鳥居まで歩いて行くことができ、とても気持ちいい景色を味わうことができました。北海道で酪農をしている次女も帰ってきて、家族全員揃って、のんびりと過ごした休みでした。

さて、アベノミクスの効果で景気は上向いていると報道されていますが、それは、一部の輸出関連企業、投資家の話であり、地方の経済は依然として厳しいのが実情だと思います。私たち美容業界を取り巻く環境も今後益々厳しくなって行くものと思います。

ただ、このような環境の中でも地場で頑張っている中堅企業14社が雑誌に紹介されていましたが、共通点はお客様の言葉ではなく、行動をよく観察し、本当にお客様が求めているものを一早く察知し、スピード感を持って対応している会社ばかりでした。

あたり前のことですが、売り手の考えでつくったものでなく、お客様の立場になってつくったものだから、売れるわけです。



Epiコの展示会

先日ソチ五輪の結団式で主将の葛西選手が「一意専心、競技に挑む」と決意表明されていましたが、

『一意専心』(わき目もふらず心を一つのことだけに注ぐこと)

今月の『月刊致知』のテーマも偶然ですが『一意専心』でした。

『神の手を持つ男』と言われる脳外科医 福島先生の対談記事を紹介させて頂きます。

福島先生は、『人生は一に努力、二に努力、三に努力、全部努力なんです。

他の人が信じられない努力をして経験を積むこと。』



そして福島先生の信条は患者さんのために全力を尽くす。

『私は全人生を、全情熱を患者さんとその家族のために尽くしているので、手術室に入った時からこの患者さんが安全に手術をして、最高の結果で手術室を出ていくまで戦いなんです。』

『自分が一所懸命、患者さんのために全力を尽くしてやっていれば、必ず神様は味方してくれる。そういう信念を抱いて手術に向かっています。』

『日本人は大事な仕事場や神聖な場所に入る時、白足袋を履くでしょう。私にとってオペ室は歌舞伎役者の舞台と同じ。だから日本でもアメリカでも、手術に臨む時は白足袋を履いているんです。』と言つておられます。

『すべては患者さんのために』まさに『一意専心』です。

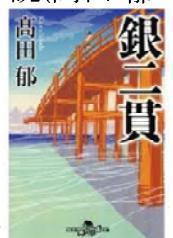
お正月休みに読んだ『銀二貫』という歴史小説(高田郁著)も『一意専心』だと思いました。

商売にとって何が大切か。

いくらお金を払っても買うことのできないものが信用です。信用とは、人の為になる

目的、目標をしっかりと持ち、日々の努力を積み重ねることにより、人間が磨かれて、得られるものだと感じました。

なかなか面白い本でした。



*裏面に続く

当社もサロン様、お客様の本当のニーズを察知し、スピードに対応し、お客様を綺麗にすること、元気にすることに『一意専心』取り組んで行きたいと思います。本年も宜しくお願ひ致します。



毎年、年明けにカラオケを一曲覚えるのですが、今年は楽天のマー君の入場曲ファンキーモンキーベイビーズの『あとひとつ』です。歌詞を紹介させて頂きたいと思います。



作詞・作曲：FUNKY MONKEY BABYS/川村結花

あと一粒の涙で ひと言の勇気で 願いがかなう その時
が来るって
僕は信じてるから 君もあきらめないでいて
何度でも この両手を あの空へ

あの日もこんな夏だった 砂まじりの風が吹いてた
グランドの真上の空 夕日がまぶしくて
どこまで頑張ればいいんだ ぎゅっと唇を噛みしめた
そんな時 同じ目をした 君に出会ったんだ

そう 簡単じゃないからこそ 夢はこんなに輝くんだと
そうあの日の君の言葉 今でも胸に抱きしめてるよ

あと一粒の涙で ひと言の勇気で 願いがかなう その時
が来るって
僕は信じてるから 君もあきらめないでいて
何度でも この両手を あの空へ のばして あの空へ

いつもどうしても素直になれずに 自信なんてまるで持
てずに
校舎の裏側 人目を気にして歩いてた
誰かとぶつかりあうことを 心のどこかで遠ざけた
それは本当の自分を見せるのが怖いだけだったんだと
教えてくれたのは 君と過ごした今日までの日々
そう初めて口に出来た 泣きたいぐらいの本当の夢を

あとひとつの坂道を ひとつだけの夜を 越えられたなら
笑える日がくるって
今日も信じてるから 君もあきらめないでいて
何度も この両手を あの空へ

あつくなっても無駄なんて言葉 聞き飽きたよ もしもそ
だとしても
抑えきれないこの気持ちを 希望と呼ぶなら
いったい 誰が止められると言うのだろう

あと一粒の涙が ひと言の勇気が 明日を変えるその時
を見たんだ
なくしきけた光 君が思い出させてくれた
あの日の景色 忘れない

あと一粒の涙で ひと言の勇気で 願いがかなう その時
が来るって
僕は信じてるから 君もあきらめないでいて
何度も この両手を あの空へ のばして あの空へ



大リーグでも頑張って欲しいですね。

もうすぐプロ野球のキャンプが始まりますが、今年のカープはドラフト、移籍で有望な若い選手
がたくさん入ってきて、本当に楽しみ
です。
ぜひ優勝目指して頑張ってもらいたい
ですね。



本の紹介

『赤ヘル1975』重松 清著
1975年広島カープが初優勝した年の物語です。当時、中三だった私にとってはその時の情景がはっきりと目に浮かんできます。

